

# 自己点検・評価報告書

令和6年度  
(2024年度)

学校法人 愛心学院  
専門学校 愛心国際ビジネスカレッジ

# 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校 愛心国際ビジネスカレッジの令和6年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

令和7年2月12日

学校長 李 明

## … 自己点検・評価項目 …

- 基準1 教育理念・教育目標
- 基準2 学校運営
- 基準3 教育活動
- 基準4 学修成果
- 基準5 学生支援
- 基準6 教育環境
- 基準7 学生の受入れ募集
- 基準8 財務
- 基準9 法令等の遵守
- 基準10 社会貢献・地域貢献

## … 評価結果 …

- A 極めて達成度が高い
- B ほぼ達成している
- C 若干の改善が必要
- D 根本的な改善が必要

## 基準 1 教育理念・教育目標

### 1. 総括

本校が教育理念として掲げる「グローバル人材の育成」は、海外進出を行う日本企業のみならず、人口減少に伴い国際的労働力を必要とする日本社会が抱えるニーズに応えるものでもあり、今後も必要な視点と言える。理念実現に向けた具体的な取り組みやプロセスを示し、学生が各々の目標として自覚できるよう多角的な視点から引き続き目指すべき理念として掲げるものとし、その実現に向け目標を明確にする。また、今年度は地域のゴミ拾いボランティアと東長寺の節分祭に参加して地域と学校を結ぶ活動を始動した。理念の一つである「貢献」を体現するには必要な体験であり、学校の意義を再確認する場でもあるため今後も継続して取り組んでいく。

### 2. 課題

教育理念や目標、育成人材像の周知は、入学前オープンキャンパスや入学後のオリエンテーション等の機会を通して行っているが、更なる浸透が望ましい。実現に向けての説得力を持たせるため、具体的なプロセスやカリキュラムにつながる分かりやすい表記を加え、いかに学生が自身の目標として取り組めるかを考える必要がある。

### 3. 改善策及び改善の方向性

本校の理念を深く掘り下げ、これを反映したカリキュラムから目標、人材像を示すことで、学生の「教育理念・目標・育成人材像」に対する理解を促す工夫を行う。また、知的貢献の意識を高めるため、学生が地域社会に関与する機会を引き続き設けていく。

項目	評価	注釈
教育理念が明文化され、確認の機会があるか	B	・明文化し、学校の Web サイトやパンフレットに記載。 ・学校を構成するすべての構成員への周知機会は年度ごとの講師会にて行う。
教育理念・教育目標は、社会のニーズに合っているか	A	グローバルな視点を持つ人材は、海外から日本に入ってくるケースに留まらず、日本から海外へ出向くケース、または多国籍のコミュニティにおいても必要不可欠。コロナ禍を脱した現在急速に需要が増している。よって、社会のニーズに合致していると言える。
理念・目標・育成人材像・将来ビジョンなどが学内外に周知されているか	B	・教育理念に基づいた教育目標、育成すべき学生像、将来ビジョンを「学校生活の手引き—学校規則—」に掲載。 ・学外発信のため、各媒体に掲載し、広報活動で配布・説明。オープンキャンパス時、新入生オリエンテーション時にも説明し、学校と学生の間での目標の乖離を生じないようにする。

## 基準 2 学校運営

### 1. 総括

事業計画に沿った運営方針を策定し、目標をもって運営に取り組んだ。2025 年度から私立学校法の一部改正により寄附行為の変更を行うため、新たな法令に準拠する寄附行為に則った意思決定システムの運営、理解を進める。また、Web サイトは今や学校運営に欠かせないツールであるが、開校時の初期仕様からの脱却を図り、協力企業、地域社会住民へ向けた情報公開をもって社会性のあるサイト運営を目指す。多方面で電子化、システム化を進めるとともに、教育活動を広く公開し、ステークホルダーとの関わりについて考える。

### 2. 課題

情報公開について、学生募集に向けては、本校 Web サイトから電子パンフレット等がダウンロード可能になるなど電子媒体へ移行準備である。開校から 4 年が経過したことで、Web サイトそのものの目的を広げる頃合いと見る。ステークホルダー及び社会へ発信する内容を精査し、拡大した情報提供の場としていくことで、社会からの認知や信用を向上させていく動きに繋げていく。

### 3. 改善策及び改善の方向性

本校 Web サイトによりタイムリーかつより詳しい学校情報を公開していく場とすることを目指す。特に、地域社会の理解の場となることを意識する。交通安全、騒音、防犯等、地域社会が抱えるネガティブな印象にどのように対応するかという具体策と、学校法人としての公的な取組みや実績等、これら両面から開示することで社会的信用の向上を図る。学校運営にとって、地域社会やステークホルダーとの相互理解や協力が必要であることを本校教職員や学生も一層の理解を深め、「迷惑をかけない」という意識から「共存」への意識改革を掲げ、地域活動への参加を一層進めていく。

項目	評価	注釈
学校の教育目標・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	B	・教育目標、事業計画に沿った運営方針を策定。
人事、給与に関する制度は整備されているか	B	・各規則や規程に則り運営している。 ・労使協定なし。
教務、財務等の組織整備や、理事会等の意思決定システムが整備されているか	B	・組織図がある。 ・寄附行為に意思決定システムを制定。
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	C	・本校 Web サイトと学外向けパンフレットにカリキュラムを掲載し、シラバスも公開。
地域活動への貢献	B	・交通指導、近隣の見回りなどを行う

・地域の行事への参加、清掃ボランティアの実施。

## 基準3 教育活動

### 1. 総括

教育理念・教育目標に基づきカリキュラムを設定している。インターンシップ制度を筆頭に職業実践的な学修を導入しているが、学生総数を鑑みても全員の履修は不可能であるため、工夫あるシラバスを取り入れる必要がある。授業の内容や評価において、企業の意見を含むための連携を進めていく。

### 2. 課題

教育課程編成に企業の意見を含む余地が十分にある。職業実践的な授業を増やすことに加え、評価についても企業連携できる仕組みを徐々に整備したい。資格取得について、段階的な具体的目標を掲げ、取得率の向上に努める。

### 3. 改善策及び改善の方向性

客観的評価を取り入れ、即戦力を育てる目標を具体的に定める。外国人留学生に対しては、資格取得を言語力に絞り確実に取得率を向上させる策を図ることで、日本文化の理解を促す。

項目	評価	注釈
教育理念・教育目標に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	B	・教育課程の編成に際し、理念・目標から科目設定。
教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえ、学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保が明確にされているか	B	・業界のニーズを渉外活動により研究。 ・定期試験および外国人留学生においては日本語能力試験取得状況を尺度とし、教育到達レベル・学習時間を設定。
関連分野における実践的な職業教育を取り入れているか	B	・国際ビジネス科、流通貿易マネジメント科、観光科の各学科において、希望者の研修・インターンシップ制度の利用可。
成績評価・単位認定の基準が明確になっているか	B	・「学校生活の手引き-学校規則-」に評価基準等を掲載。
資格取得に関する指導体制、カリキュラム中での体系的な位置付けがあるか	B	・外国人留学生においては、入学時に日本語のプレースメントテストを実施して習熟度を把握し、最終目標とするレベルに到達するカリキュラムを設定。 ・同学科を複数クラスで構成している場合は習熟度によってクラスを編成。
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	B	・実務経験のある教員を各学科、各分野に確保。

職員の能力開発のための研修等が行われているか	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己研鑽のため各自研修に参加。</li> <li>・入社時に、常勤教員、非常勤教員ともに同学科の他教員が授業を見学、授業実施や内容についてのアドバイスを行っている。</li> <li>・定期的な研修を行っていない。</li> </ul>
------------------------	---	--

## 基準 4 学修成果

<b>1. 総括</b>		
<p>本校の就職率は、第1期卒業生から継続的に高く安定した状態を維持している。今後は、卒業生のキャリアプランをカリキュラム編成に還元するためのデータ化を進めるとともに、就職支援の体制づくりを強化する。保護者による経済的支援の薄い外国人留学生は特に目指すべき資格を分析し、それに特化した学修を体系的にカリキュラムに反映していくことも視野に入れる。</p>		
<b>2. 課題</b>		
<p>高い就職率を継続させるため、体制づくりが課題。卒業生の動向について、個別で把握しているが、活用例を提示してデータ共有の必要性を認識する必要がある。</p>		
<b>3. 改善策及び改善の方向性</b>		
<p>就職支援の体制を整備するため、担当部署・職員の配置と、キャリアプランとして卒業生の動向のデータ化を行う。また、学生の特性を分析・把握し、資格取得のターゲットを絞り、確実に資格取得率の向上を図る。</p>		
項目	評価	注釈
就職率・資格取得率の向上が図られているか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率および資格取得率を把握。</li> <li>・外部就職説明会に参加。</li> <li>・職員による渉外活動で企業や就職支援機関との繋がりを強化。</li> <li>・就職に役立った授業内容について、実際の学生の声を反映。</li> </ul>
退学率の低減が図られているか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇中などにおいて救済措置として補講を実施。</li> <li>・学費納入分割の相談に対応。</li> </ul>

卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	B	・卒業生の状況を継続的に確認。
---------------------------------------	---	-----------------

## 基準 5 学生支援

### 1. 総括

本校は現在、学生全員が外国籍であるため、外国語対応スタッフが常駐してフォロー体制をとっており、基盤となる生活の相談窓口を明確にしているため学生は安心して学業に取り組んでいる。また、クラス担任制をとり、就職と学業について取りこぼしがないようサポートしているが、次年度の学生数増加は看過できない変化であることを念頭に、実情を確認しながらキャリア科目担当教員や担任のフォロー体制を作り上げることが必要。

### 2. 課題

人数とクラス担任数が見合わず、十分な役割が果たせない側面があった。担任のサポートに目を向け、取りこぼしがないように、情報共有の仕組みを考えることが必要。

### 3. 改善策及び改善の方向性

クラスの人数調整は、施設面から現実的ではないため、担任業務を細分化して分担する、またはチームティーチングを導入する等のフォロー体制の見直しを図る。次年度の学生数は更に増える見込みのため、情報共有の取決めを早急に行う。

項目	評価	注釈
進路・就職に関する支援体制が整備されているか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口を明確にするクラス担任制。</li> <li>・学内に相談室を設置し、環境を整備。</li> </ul>
学生相談に関する体制が整備されているか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人留学生の生活サポート需要に対応できるネパール、中国、ベトナムのスタッフが常駐。英語対応教職員も常駐。</li> <li>・アルバイトの紹介。</li> <li>・自動車学校の紹介。</li> </ul>
学生の経済的な支援体制が整備されているか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の条件を充たした入学者への減免措置。</li> <li>・学校独自の奨学金制度。</li> <li>・外部機関の奨学金制度斡旋。</li> </ul>
学生の健康管理を担う組織体制があるか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提携医療機関に、学生の健康診断を委任。</li> <li>・再検査が必要な場合における病院紹介。</li> </ul>

課外活動に対する支援体制が整備されているか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学業以外の経験を提供することを目的とし、スポーツ大会とクリスマス発表会を開催。</li> <li>・地域神社の節分祭に参加。地域清掃ボランティア活動への参加。</li> </ul>
卒業生への支援体制があるか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の証明書等を発行。</li> <li>・就職先を把握。</li> </ul>

## 基準 6 教育環境

<p><b>1. 総括</b></p> <p>不備があればすぐ解決できる程度であった。具体的には、学内設備の PC に関することで、充電フロアを分割することで解決した。また、インターネットが繋がらず、教材として学生に紹介したいサイトが表示できないことがあった。学生が無断で学校の wi-fi を使用していたためであり wi-fi のパスワードを変更することで解決した。ただ、来年度のキーワード【学生数増加】において、教育環境がもっとも影響を受ける項目の一つだと考えられるため、想定されるトラブルを予測して、これらを未然に防げるよう取り組むことが鍵となる。防災面について、訓練の実施予定がない分、教職員が行う学生への指示や緊急連絡等は日頃から確認するようにする。</p> <p><b>2. 課題</b></p> <p>PC の充電と使用が集中するフロアにおいて、ブレーカーが落ちる不備が生じたが、フロアを分散することですぐ解決できた。また、wi-fi のパスワードを変更することで解決した。</p> <p><b>3. 改善策及び改善の方向性</b></p> <p>次年度の定員増加（定員増員申請予定）に備え、PC および PC 周辺設備について長時間の継続起動を避けるよう授業構成を工夫してトラブルを未然に防ぐ策と、トラブルが起こった場合の対応の両面から対策を立てる。トラブルが発生した場合は、事務局スタッフがまんべんなく対応できるよう情報を共有する、想定される情報を事前に収集しておく。</p>		
項目	評価	注釈
学内外の実習施設や設備、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の PC 設備を問題なく運営。</li> <li>・希望者へインターンシップ制度の利用を提供。</li> </ul>

		・騒動後より、「ネット環境は教職員のみ把握し、学生へは非公開とする」取決めを決定。
防災に対する体制が整備されているか	C	・教職員、学生への周知が不十分。 ・年2回の消防設備点検の実施。

## 基準7 学生の受入れ募集

### 1. 総括

2021年4月の開学から4年目を迎え、これまで順調に在籍学生数を増加させ、2024年度は定員を充足する状況に至っている。

本校は、「求める学生像」をアドミッションポリシーにまとめ、これを本校 Web サイトや学校案内、オープンキャンパスや進学相談会等を通じて、入学検討者や入学希望者、外部学校関係者、保護者等に明示して、福岡県内のみならず広域での募集活動を行なっている。

本校の教育内容及び学修成果、進学・就職状況、入試や学納金等に関する情報は、本校 Web サイトや学校案内、オープンキャンパスや進学相談会等での説明に加え広報担当者が定期的に高校や日本語教育機関等の教育現場を訪問し、最新情報の提供に努めることで本校への接続教育を間接的に強化している。

また、入学試験においては、公正かつ適切な入学選考を担保するため、試験運営にあたっては別に入学試験実施規程を定め実施している。福岡県外からの出願者に対しても、基本的には対面での出張入学試験を実施し、入学希望者の正確な把握と校正かつ適切な試験を行っている。

### 2. 課題

定員管理について、過年度の入学者数及び入学辞退率を踏まえ管理している。継続的に定員の適正管理について評価・検証を行い、入学辞退理由等を精査している。但し、本校はまだ開学以来の日が浅く入学退学率にばらつきが大きく、現在は定員を超過している状況にあるため、学生募集においては定員を一層念頭に合格判定を行なうと共に、入学後の退学指導管理も適切に行う必要がある。

### 3. 改善策及び改善の方向性

新校舎建設による定員増員申請を予定しており、校舎等の環境に見合う定員の適正化に取り組むと共に、学生募集においては入学辞退率を適正に設定変更を行ない、定員管理を行なっていく。

また、より高い日本語力を有する学生や入学目的が明確かつ堅固な学生といった入学希望者の学生としての質にも拘り、学生募集における数から質への転換を図ることで、入学者数及び入学辞退率の平準化を実現し、併せて定員管理を行ないやすい環境を整えていく。

項目	評価	注釈
学生募集活動が、適正に行われているか	A	・広報計画、学校訪問計画を立案。 ・教育活動、教育環境、理念等を伝えるための資料を用いた適切な活動。
学納金は妥当であるか	A	・実習室を必要としない学科のため、比較的ローコストな運営を維持。 ・外国籍の学生の経済状況を鑑みても支払い可能な額を提示。

## 基準 8 財務

1. 総括  
本年度まで自己資金で運営できているが、来年度新校舎設立という大きな動きがあるため、学生募集の強化、学校の知名度を上げるための取り組み、また、就職支援・進学支援にもさらに力を入れている。
2. 課題  
予算の執行状況確認を定期的に行ない、教職員で共有する。
3. 改善策及び改善の方向性  
部署ごとの予算を各部署の長に説明し、適正な予算利用をする。

項目	評価	注釈
長中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	B	・中期計画をもって年度予算を策定。 ・リスク管理計画を立案。
予算・収支計画は有効かつ妥当であるか	B	・予算計画に従って執行。

## 基準 9 法令等の遵守

1. 総括  
専修学校設置基準に従い、適正な運営を行っている。引き続き、基準や法令に従った運営を行うとともに、教職員の人材育成の観点から課題解決のアプローチを図る。正確かつ迅速な情報共有で教職員と学校の相互信頼を築き、人材離れの先手を打つ運営を行う。

## 2. 課題

人材について、退職が目立つため、基準に準拠した人材確保がやや難しい。更新に繋がらない。

## 3. 改善策及び改善の方向性

教員離れの対策を立て、人材確保に努める。来年度は特に学生数の増加が著しいため、人材が大量に離れることは学校運営の破綻に直結すると心得て、中長期の計画を教職員間で共有し、目標達成を共通の意思とする空気作りを行う。

また、基準等の改正については、教職員と情報を共有しそれに伴う対応の変更などを出来得る限り迅速に行い、教職員と学校の相互信頼向上に努める。

項目	評価	注釈
法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	A	・専修学校設置基準に従った、履修や修了要件、教員数を整備。
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	B	・個人情報取扱方針を制定し、学生規則にも記載。

# 基準 10 社会貢献・地域貢献

## 1. 総括

夏休みに周辺の清掃活動を行った。また、近隣の住民から、自転車のマナー・騒音などのクレームに対応し教職員による交通指導や休憩時間の周辺の見回り、清掃を継続的に行っている。学生に自転車の交通ルール改正の内容を周知するなど指導を継続しており、状況は改善に向かっている。

今後はさらに学校から社会、地域に役立つ活動を取り入れることで、学生の達成感や住民への学校、学生への理解を深める必要がある。

## 2. 課題

学生と地域住民へのかかわりがほとんど持っていない。登下校時の交通指導に係る教職員が足りず、教職員がいないところではルールが守られていないところがある。さらに学生に対してルールを守る必要性を指導していく必要がある。近隣住民の不安を解消するため、騒音・ゴミ出しなど生活のマナーを指導していくことも必要である。

## 3. 改善策及び改善の方向性

学生による清掃活動を継続して行っていく。学校と地域との相互理解を深めるため、コミュニケーションを図る場には、積極的に参加していく。緊急避難場所に登録し、地域住民に学内を開放する機会を検討するとともに、地域住民からの相談窓口を設ける。

項目	評価	注釈
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の社会的位置付けを把握。</li> <li>・学生のボランティア活動の奨励および支援。</li> <li>・地域の行事に参加。</li> <li>・登下校時の交通指導を実施。</li> </ul>